



学校だより 神橋

平成29年9月29日
横浜市立神橋小学校

10月号



りんごは何色？

校長 末松 隆一郎

気がつけば鱗(うろこ)雲・鯛(いわし)雲浮く青く高い秋空。街のそこかしこで、秋桜の花が金木犀ほのかに香る涼しげな風にそよぎ、桐一葉舞う秋麗の頃となりました。

学校では、10月21日(土)に行われる運動会に向けて、各学年の練習や、リレー、応援団、金管クラブの早朝練習も本格的に始まりました。先日行われた結団式にて今年の運動会スローガン「**笑顔で協力 1up! 最後まで優勝めざしてがんばろう!**」も全校に発表され、子ども達の活動も日に日に熱を帯びてきています。

「りんごは何色？」

「赤！」

「レモンは？」

「レモン色！」

「キュウリは？」

「みどり！」

そして、太田は子どもたちの目をじっと見て、ひと言質問する。

「ほんと？」

子どもたちは、一瞬ハッとする。



この文章は、『りんごは赤じゃないー正しいプライドの育て方ー』という本の一節です。この本は、中学校の美術教師であった太田恵美子さんの教育実践を、ノンフィクションライターの山本美芽さんが2年間にわたる取材をもとにまとめたものです。

子どもたちは何に「一瞬ハッと」したのでしょうか。りんごを実際に手に取って見つめてみましょう。そう、りんごは、実際にはいろいろな色が混ざり合った複雑な色をしています。りんごを「『赤!』だ」と断言してしまうのは、実は「りんごは赤いはず」という先入観があるからではないのでしょうか。

「りんごは赤じゃない」という言葉は、授業の中で、太田先生が子どもたちの先入観をなくすときに投げかけていた言葉です。先入観を壊し、「りんごは赤じゃない」という見方は、やがてものの本質を見抜く感覚へと育っていく。そして、自分の目でものを見る力がつき、人やものがそれぞれ「違う」ということが感じ取れるようになり、表面的な色や形、数値などで分類することに違和感を感じる……。ものの本質を自分の目でみる力・感じる力、そしてその力をもとに表現する力の大切さを、この本は太田先生の日々の実践を通して教えてくれています。

この見方、この力、人権教育の取組や正しい自尊感情を身に付けさせていく上で、子ども達にとってとても大切なことだと思います。そして、学校の中で日々子ども達に接している私たちにとっても、とても大切な見方(児童観・人間観)ではないかと思います。子ども達は(人は)、一つの色で見られてしまい、塗られてしまい色分けされてしまうような存在ではないはず。

今年度がスタートして半年。前期終了を控え振り返り点を過ぎようとしています。4月からの出会いを振り返り、それぞれの心の中に「りんごは赤!」という見方がないかどうか、それぞれが問うてみるいい時期ではないのでしょうか。